1　静岡県が小学校外国語活動で目指すもの

(1) 育てたい子どもの姿

静岡県は，子どもが外国語活動を通じて，次のア～オのように育っていくことを期待しています。

ア　自分を大切にできる、自己肯定感に満ちた子ども

使い慣れない言語を用いたコミュニケーションであっても，子どもが自分の思いを伝えるだけでなく，相手の発話に反応をしたり，よさを認めて「ほめ言葉」で返す活動を行ったりすることによって，子どもはコミュニケーションの場で相手のよさに着目するようになります。相手の良い面に着目し，お互いを認め合う大切さを実感することで，自己肯定感を高めてほしいと思います。

イ　相手に対する思いやりのある子ども

使い慣れない言語でコミュニケーションを行うという困難さを乗り越える中で，子どもは相手意識を持ち，聞き手に分かりやすく伝える工夫を凝らし，コミュニケーションを行うようになります。何とか相手の意向を理解しようとする態度，何とか相手に分かってもらおうとする姿勢の必要性を実感することで，相手への思いやりの大切さに気付いてほしいと思います。

ウ　言葉を大切にする子ども

使い慣れない言語でコミュニケーションを行うという困難さを乗り越える中で，子どもは様々な場面における言葉を使ったやり取りを通して，言葉が相手に与える影響の大きさや，言葉の便利さを体験的に理解します。このようなコミュニケーションを通して，外国語もまた，日本語と同じように人と思いを伝え合うことができることに気付きます。そこから外国語を使って世界のいろいろな人と話してみたいという思いが膨らんでいくことも期待できます。これらの体験を通してコミュニケーションにおける「言葉の力」を十分に理解し，言葉の大切さに気付くとともに，相手のことを考えて言葉を選んで使うことができる子どもになってほしいと思います。

エ　言語や，その背景にある文化に興味・関心を抱く子ども

使い慣れない言語を用いたコミュニケーションを通して，子どもはその言語独特のリズムや雰囲気を楽しんだり，背景にある文化に興味を持ったりします。外国の言語や文化を日本語や自分の身の回りの事象と比較する中で，自分の生活では当たり前であったことが，当たり前でないことに気付くなど，お互いの文化や生活を尊重する意義を体験的に理解してほしいと思います。

↓

オ　人と関わることを魅力的だと感じる子ども

使い慣れない言語でコミュニケーションを行うという困難さを乗り越える中で，子どもは，自分の十分ではない英語でも最後まで聞いてもらえた満足感，分かってもらえたという達成感を得ることができます。こうした体験を通して，子どもは人の話をじっくり聞くことの意味を主体的に理解し，人の言葉に関心を持って耳を傾けることができるようになります。外国語活動の時間を通して，人と関わることの魅力に気付いてほしいと思います。

(2) 目指す授業

静岡県は子どもが前述のように育っていくために，外国語を用いて次のア～ウのような授業を目指します。

ア　コミュニケーションの楽しさを実感する授業

人と関わる楽しさを実感する授業

子どもは，自分のことを表現したり，友だちの新たな一面を知ったりすることで，人と関わる楽しさを実感し，積極的にコミュニケーションを図ろうとします。「伝えたい」「聞きたい」という思いが膨らむコミュニケーション活動を設定し，子どもの，友だちともっと関わりたいという意欲を高めましょう。

「言葉の力」を実感する授業

あえて使い慣れない外国語を使用することで，母語でのコミュニケーションでは見られない様々な工夫が必要となります。コミュニケーションの難しさに直面することで子どもは言葉の有用性を実感するでしょう。同時に，自分の思いが相手に伝わったという喜びは，人と関わることの魅力を実感させ，人とのつながりを大きく広げてくれるという言葉の可能性に気付かせてくれます。

イ　言語や文化を体験的に理解する授業

日本語と外国語，日本の文化と外国の文化を比較したり，外国の文化を体験したりする中で，子どもが持った親しみや気付きを大切にして授業を進めましょう。また，それぞれの言語や文化に対する理解が深まり，それぞれのよさを実感できるような活動を設定しましょう。外国語活動の授業を通して，子どもが外国へ行ってみたいなと思ったり，日本のよさに気付いたりすることも期待できます。

ウ　成功体験を積み重ねていく授業

自信と安心感の中で学ぶ授業

子どもは,「思いが伝わった」「友だちの言いたいことが分かった」という経験を積み重ねることで，人と関わることへの自信を深めていきます。そのためにも，単元の中心となるコミュニケーション活動を行う前に，子どもが語彙や使用表現に十分慣れ親しんでいるかどうか，状況を確認しながらスモールステップで授業を進めましょう。また，子どもが不安を感じることなく友達と関わることができるよう，コミュニケーション活動の時間を十分に保障することも大切です。自信と安心感に支えられて，子どもは外国語を用いた積極的なコミュニケーションに挑戦し，多くの成功体験を得ることができます。

自己肯定感を高める授業

子どもが達成感を味わったり，互いの成長を実感したりできるよう，コミュニケーション活動から得た学びや気付きを，共有しましょう。また教師は積極的に人と関わろうとした子どもの姿を意図的に取り上げ，成果の一つとしてフィードバックしましょう。子どもの自己肯定感は，自分のよさを確認し，友だちから認められることで高まっていきます。

⑶ 望ましい授業者

静岡県は，前述のような授業が行われるよう，授業者に，次のア，イのようであってほしいと考えています。

ア 「育てる」という視点を持った指導者

子どもを深く理解して授業を構想する指導者

外国語活動では指導者に単元構想力が求められます。単元や１時間の授業を構想する時には，子どもがどのようなことに興味を持ち，どんなことを今，学校で学んでいるのかなどを把握する作業が欠かせません。授業の中で「ここは〇〇さんの出番だ。」と意図的に指名することも，指導者の子ども理解が基盤にあってこそ可能なことです。指導者が子どもにとって何が楽しいのか，何が子どもの心に訴えるのかを，誰よりもよく理解し，子どもの心と頭を動かす活動を仕組むことで，子どもが活動を楽しむことができます。

子どもの姿を肯定的に受け止める指導者

活動に取り組む子どもの様子からは，数や量，速さといった数字で測ることができるような要素ばかりではなく，何とか相手に思いを伝えようとする「話し手」の姿や，相手の思いを何とか汲み取ろうとする「聞き手」の姿を積極的に価値付けます。コミュニケーションへの積極的な態度は，素早く次々に相手を替えて対話する姿よりも，むしろ一人一人の伝えたい思いを汲み取ったり，不完全でも何とか伝えようとしたりすることで育まれることを念頭に置きましょう。また，授業中，子どもの困り感やつまずきを察知し，コミュニケーションでの目標を達成できるように適切に支援することで，どの子どもも成功体験を得ることができます。

子どもの学びを大切にする指導者

授業の終わりでは，振り返りの場を持ち，子どもの「コミュニケーションに対する変容」に着目し，相手と粘り強く関わろうとした姿を価値付けることが大切です。また，言語や文化について授業中に子どもが示す反応や，比較して気付いた事柄について，指導者が共感的に取り上げることも大切です。たとえ，小さな気付きでもその子らしい受け止め方ができたことを指導者が肯定的に価値付けることができれば，子どもは新しい気付きを求めて主体的に学び続けようとします。さらに，子どもが自信を持って次時の授業に向かうことができる状態であるかどうかを教師が的確に判断することも，この段階で必要なポイントです。このような取組を繰り返すことにより，子どもはコミュニケーションを通して自分が大切にされていることを学び，自己肯定感を高めていきます。

イ 「自らも参加する」という姿勢を持つ学習者

指導者が子どもと同じ学びの目線に立って，子どもと共に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする積極的な姿勢を見せることで，子どもが外国語活動で人と関わることに意欲的に取り組むことが期待できます。新しいものに挑戦する気持ちや失敗を恐れない姿勢を持って一所懸命に人と関わろうとする指導者の姿を見た子どもは，「がんばれば自分にもできそうだ。」と外国語を用いることを肯定的に受け止め，学びに対して前向きな気持ちを持つでしょう。

(4) 補足

ア　学習指導要領との関わり

学習指導要領に示された外国語活動の目標は次のとおりです。

> 外国語を通じて，言語や文化について体験的に理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら，コミュニケーション能力の素地を養う。

ここに示されたとおり，小学校外国語活動は，次の(ｱ)～(ｳ)の三つの手段を通じて，コミュニケーション能力の素地，すなわち広く言葉を通して人と関わる力を養うことを目指しています。

(ｱ) 外国語を通じて，言語や文化について体験的に理解を深める。

外国語活動において，言語や文化は体験的に理解されるものであり，一方的に教え込まれるものではありません。異文化に接しながら，違いを違いとして認め，重なりも大切にしながら，お互いに尊重し合う態度が養われることを目指しています。

(ｲ) 外国語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。

子どものコミュニケーション能力の低下は，今日の日本が抱える深刻な社会問題の一つとなっています。

外国語活動は，外国語によるコミュニケーションを通して，自分の思いを相手に伝えたり，相手の気持ちを理解しようとしたりすることで，言葉を大切にする意識や，前向きに人と関わろうとする意欲的な態度を育てることをねらいとしています。

(ｳ) 外国語を通じて，外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。

外国語活動は，英語学習の前倒しではなく，音声を中心としたコミュニケーション活動を通じて，外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませることを大きな目標としています。

思わず聞きたくなったり，言いたくなったりするような活動を繰り返し行うことで，子どもの，自分が慣れ親しんだ表現を実際のコミュニケーションの場面で使ってみようとする姿勢や，言葉に対する興味・関心を育てます。

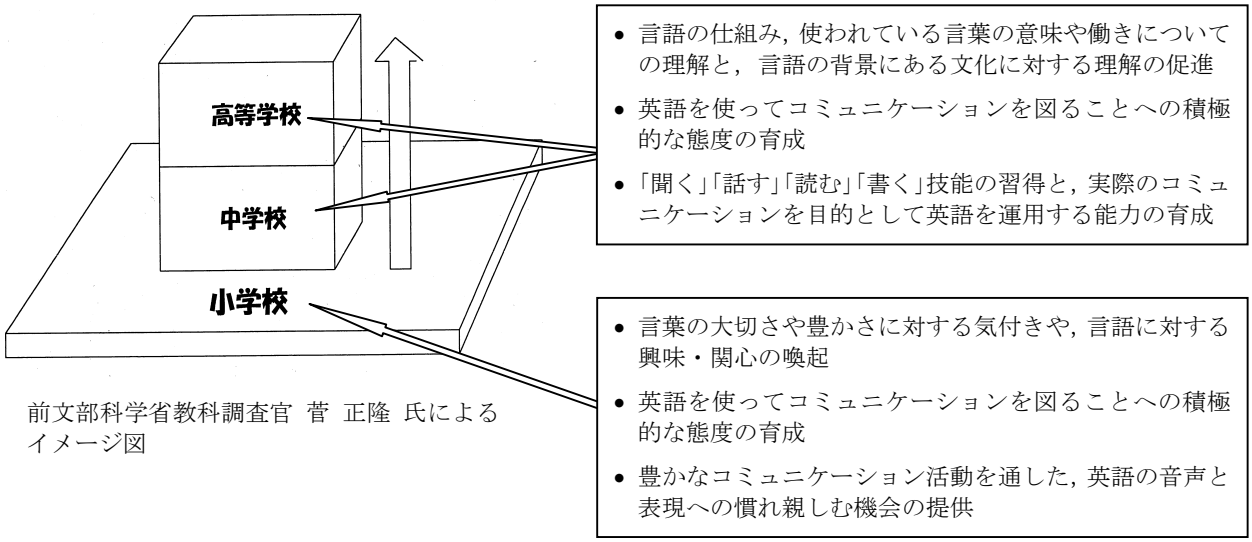
前述の，「育てたい子どもの姿」，「目指す授業」，「望ましい授業者」に関する提案は，以上のような解釈に基づいたものです。

イ　中学校及び高等学校へのつながり

小学校の外国語活動は，コミュニケーションへの積極的な態度を育成することが特に重視されている点で，中学校の英語学習と大きく異なる一方，中学校・高等学校における外国語科の学習につながるコミュニケーション能力の素地を養うものでもあります。

ここでは，英語教育の視点に立ち，小学校外国語活動が中学校・高等学校の英語学習にどのようにつながっていくかを考えます。

【今後の小・中・高の英語教育のイメージ】



前文部科学省教科調査官　菅　正隆　氏による
イメージ図

小学校の外国語活動は，小学校だけで完結するものではなく，中学校，高等学校の英語学習への入り口であり，さらに生涯にわたる学習につながっていくものです。小学校での楽しい出会いが，その後，英語を学んでいくための動機付けとなるかもしれません。ですから，小学校段階では，英語を使ってコミュニケーションを図る楽しさを十分に体験させ，言葉の役割や大切さに気付かせていくことが必要となります。英語の単語や表現の定着を求め，練習を繰り返したり文法を教えたりするものではありません。英語で伝え合う喜びを積み重ねていくことで，言葉に対する感性や人と関わろうとする意欲が培われていくのです。これは，中学校からの英語学習は，コミュニケーションの手段としての言葉の学習である，という意識を子どもに持たせることにつながります。

また，子どもにとって，英語でコミュニケーションを図る機会は学校での授業以外にほとんどありません。子どもの「知りたい」，「伝えたい」といった意欲が高まっていくような活動を工夫し，豊かなコミュニケーション活動が展開されるような授業を組み立てていきましょう。

なお，小学校外国語活動は音声面を中心としたコミュニケーションを行うこととなっており，文字については，アルファベットを聞いて形を認識したり，アルファベットを見て書き写したりする程度になります。実際の授業において，英語の単語を絵と共に見せることはあっても，文字だけを見せて読ませようとしたり，絵を見せて文字を書かせようとしたりすることは小学校の指導内容としては望ましくありません。

ウ　ティーム・ティーチングの留意点

授業運営の舵取りをALT任せにすることなく，学級担任（又は外国語活動を担当する指導者）が務めましょう。クラスをうまくコントロールしながらも楽しい外国語活動を演出し，児童一人一人を観察して褒め，適切な支援や励ましを行うには，子どもの実態を熟知している学級担任が授業を担当するのがよいでしょう。

また，子どもの異文化理解を促すため，ALTが文化発信するための時間を意図的に設定し，ALTに授業のねらいをはっきりと伝えた上で母国文化の紹介などをしてもらいましょう。この際にも，学級担任が主となり，ALTと共に授業を進めていくことが大切です。

【学級担任とALTの役割】

	学級担任	ALT
授業前	• 付けたい力と子どもの実態や他教科等との関連性に基づいた単元の構想及び授業案の作成 • 打合せ会の計画と運営 • ALT等への授業の説明 • 教材や教具の作成	• 外国語の知識に基づいて，授業で扱う言語表現に関する助言 • 文化的な側面から授業を展開することへの助言 • 資料や教材の作成
授業中	**学習者としてのモデル** • 間違えてもいいんだという気持ちで外国語を用いて話したり質問したりして積極的にコミュニケーションを図る姿の提示 • 異文化や外国語または相手が話す内容を肯定的に受け取ろうとする姿勢の提示 **子どもの実態に基づいた授業運営** • ALTによる活動の説明等の補助 • 子ども理解に基づいた指名 • 子どもの学習状況に配慮した適切な指導や支援 • 子どもが学習活動を意図的に振り返る場面の設定 • 主にコミュニケーションにおける態度，積極性，個人の変化に着目した評価	**外国語や外国の文化を実際に表す存在** • 子どもが「外国語が通じた」と感動できる存在としてのコミュニケーションの対象 • 活動の進め方などの説明の主導 • ネイティブ・スピーカーの視点からの授業運営 • 自国の文化，諸外国の事物に関する話題の提示 • 子どもへの問い掛け • 子どもを引き付ける言語や内容の提示 **ネイティブ・スピーカーの視点からの評価** • コミュニケーションに対する子どもの態度や積極性について，主に使用している外国語の視点からの評価
授業後	• 教材の整理 • 授業案についての振り返り • 子どもの振り返りの次回への反映	• 授業に関する反省及び助言の伝達

【ALTとの関わり方についてのポイント】

(ア) 全教職員が積極的にALTに話し掛ける。辞書を使ってでも積極的に関わろうとする姿勢が大切である。

(イ) ALTとの会話の中で分からないことがあったら，臆せず繰り返し聞いて確認をする。

(ウ) ALTの得手，不得手を把握し，個性や特技を生かす。

(エ) 世界には多様な英語があり，ALTの話す英語をその一つとして尊重する。

(オ) 配慮を要する子どもについて，授業前にALTに知らせておく。